

(技術名) インド型水稻品種「カーチバイ」におけるトリケトン系除草剤の感受性							
(要約) インド型水稻品種「カーチバイ」は、トリケトン系除草剤（ <u>ベンゾビスクロン</u> 、 <u>メソトリオン</u> 、 <u>テフリルトリオン</u> ）の散布により、感受性品種「タカナリ」および「夢十色」と同様の <u>白化症状</u> を呈し、 <u>生育阻害</u> が認められることから、同剤に感受性を有する。							
農業研究センター名護支所・作物園芸班					連絡先	0980-53-5395	
部会名	作物	専門	栽培	対象	水稻	分類	指導
普及対象地域							

[背景・ねらい]

インド型水稻品種「カーチバイ」は、泡盛原料用として伊平屋村で試験栽培されている。インド型水稻品種は、多収性を有しており全国で加工用として普及しているが、一部に水稻で広く利用されているトリケトン系除草剤（ベンゾビスクロン、メソトリオン、テフリルトリオン）に感受性を有する品種があり、白化症状から枯死に至る事例が報告されている。

そこで本研究ではインド型水稻品種「カーチバイ」の安定生産に向け、トリケトン系除草剤の感受性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「カーチバイ」は、トリケトン系除草剤の散布により、葉に特有の白化症状が現れ、枯死に至る（図1）。
2. 「カーチバイ」は、トリケトン系除草剤の散布により、感受性品種の「タカナリ」および「夢十色」と同様に地上部乾物重が減少する。一方、抵抗性品種の「ひとめぼれ」および「北陸193号」では、生育阻害は確認されない。これより「カーチバイ」はトリケトン系除草剤に感受性を有すると推察される（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本成果は、「カーチバイ」の栽培において、指導者の参考資料として活用できる。
2. 「カーチバイ」の栽培では、トリケトン系除草剤を散布しない。また、トリケトン系成分を含有しない除草剤は、本研究で用いた剤（図2）以外にも多く市販されている。
3. 「カーチバイ」（旧系統名「YTH183」）は、国立研究開発法人国際農林水産業研究センター（JIRCAS）で育成され、2021年度に品種登録予定である。また伊平屋村において2020年の二期作で10ha、試験栽培されている。
4. 本県的水稻奨励品種である「ひとめぼれ」、「ちゅらひかり」、「ミルキーサマー」、「ゆがふもち」はトリケトン系除草剤に抵抗性を有している。そのため、これらの品種と「カーチバイ」を輪作する場合は、トリケトン系除草剤を散布することで、同品種の漏生イネによる混入を軽減できる可能性がある。

[具体的データ]



図1 トリケトン系除草剤(ベンゾピシクロン)による「カーチバイ」および感受性2品種の白化症状

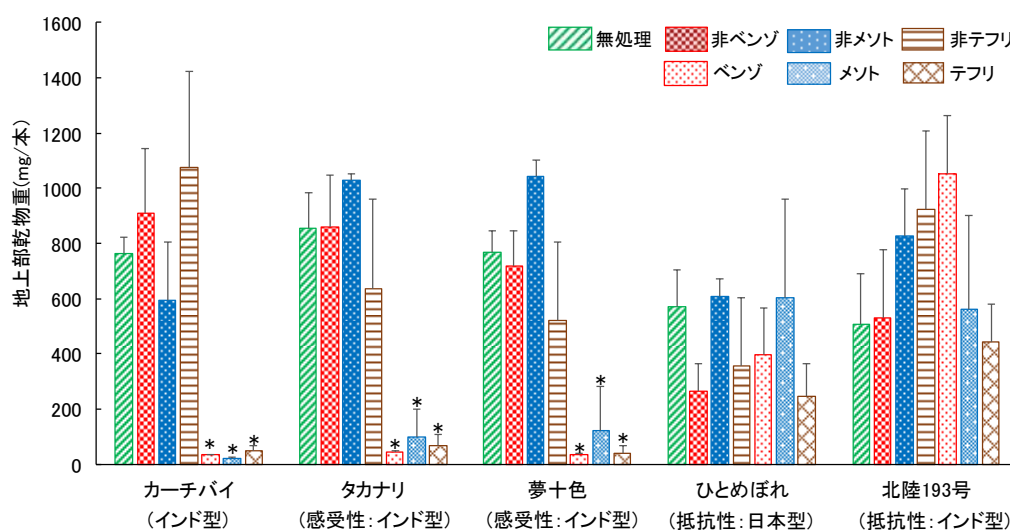


図2 トリケトン系除草剤が水稻5品種の地上部乾物重に与える影響

- 1)同一品種内において、各処理区の*は無処理区に対して5%水準で有意差を示す(Dunnettの検定)、またバーは標準偏差を示す。
- 2)耕種概要について、1/5000aワグネルポット(国頭マージ)を用いて、施肥は窒素3.9kg/10a量とし、各処理区とも3反復とした。2020年5月1日に各処理区とも5品種の稚苗を1本とし、根を露出させずに深水状態(5cm)で移植し、同年5月21日に地上部を採取した。
- 3)処理区は以下の除草剤を用いて、適用表のとおりに移植直後に1kg/10a量を散布した。
「ベンゾ」(ベンケイ1キロ粒剤):ベンゾピシクロン3.0%+ピリミスルファン0.5%+フェノキサスルホン2.0%
「非ベンゾ」(ガンガン1キロ粒剤):ピリミスルファン0.5%+フェノキサスルホン2.0%
「メソト」(マキシ-MX1キロ粒剤):メソトリオン0.6%+プレチラクロール4.2%
「非メソト」(ソルネット1キロ粒剤):プレチラクロール4.2%
「テフリ」(カウンスルコンプリート1キロ粒剤):テフリルトリオン3.0%+トリアファモン0.5%
「非テフリ」(カウンスルエナジー1キロ粒剤):トリアファモン0.5%+フェンキノトリオン3.0%+フェントラザミド3.0%

[その他]

課題 ID : 2020 農 002

研究課題名 : 泡盛原料に適した長粒種米の安定多収技術の確立

予算区分 : その他 (うちな一島米産地経営安定支援事業)

研究期間 (事業全体の期間) : 2020 年度 (2020~2022 年度)

研究担当者 : 田中洋貴、伊禮風沙、比屋根真一、宮城敏政

発表論文等 : なし